ヨコハマタイヤ・マニュファクチャリング・タイランド（YTMT）CSRレポート

事業内容： トラック・バス用タイヤ、小型トラック用タイヤ、乗用車用タイヤの生産・販売
敷地面積： 418,029m² （工場）、1,690,000m² （テストコース）
従業員数： 2,076名 (2017年12月)
所 在 地： 7/216 Moo.6, Amata City Industrial Estate, Tambol Map Yang Porn, Amphur Pluakdang, Rayong Province 21140, Thailand

相談・苦情などの受付窓口：
Human Resources and Administration Dept.
TEL : +66 (38) 627-170　FAX : +66 (38) 627-199

社長ご挨拶

高木　誠

当社は、2004年からタイ国にて事業をスタートしました。横浜ゴムの新中期計画(GD2020)に沿って、海外での総合タイヤ（TBS、PC/LT）の生産拠点となり、2020年代にさらなる進歩を目指します。
2009年に横浜ゴムのタイヤ開発、試験能力を飛躍的に強化するために、工場から約30kmの所にタイヤプルービンググランド、TIRE TEST CENTER OF ASIA（TTCA）を建設。2013年にWET・DRYハンドリングコースを拡充しました。2017年にはGeolandar G003M/Tの開発がオフロードコースで行われました。
“アジアのデトロイト”と言われているタイ国をはじめ、ASEAN諸国では、モータリゼーションが凄まじい勢いで発展しており、自動車の重要部材の1つであるタイヤは、その要求性能の満足度と品質の信頼性がますます重要になっています。一方で、環境への配慮も重要で、原料の調達時から環境への負荷が少ない素材を使い、それらの特性を生かして、必要最小限のエネルギーでタイヤを生産することを目標に、商品開発、上市、生産拡大を図っています。
2007年にISO14001の認証を取得して以来、環境マネジメントシステムを機軸に、従業員全員参加による環境保全活動にも取り組んでいます。毎年、具体的な目標を定め、継続的に環境負荷の軽減活動を行うことで、各々の項目を改善しております。2011年にはISO50001（エネルギーマネジメントシステム）の認証をタイ国で初めて取得し、省エネ・節電の継続的な改善も積極的に進めております。
2017年6月にはコージェネレーションヒートプラント(CHP)が本格稼動し、14%のCO_2排出量の削減(5,642t-CO_2(稼動期間6-12月))となりました。
環境保全の取り組みとしては、CO_2削減と地域との良好なコミュニケーションを目的に、YOKOHAMA千年の杜プロジェクトとして、植樹活動を2008年より開始し、この10年間の取り組みの最終年度である2017年には、累計植樹本数は84,725本となりました。
目標達成率は169%、CO_2吸収固定量は677,798トン/年となりました。植樹に使う苗は、当地のどんぐりから発芽させた自前の苗を使う宮脇方式の杜づくりに準じており、この方式を他社や地域の学校にも広め、サポート活動も行っています。また、3年前に横浜ゴムグループの海外拠点で初めて、生物多様性保護活動を開始しました。地域社会と一体となった活動を目的として、地域や行政にこれらの活動を紹介しました。今年度は生態系のバランスをとるために、生物多様性活動のモニタリングと改善を続けています。

組織統治

組織・体制の見直し

チームワークの良い一体感のある組織づくりを目指して、組織運営を実施しています。
2017年度から、安全活動を集中的に行うために、新たな取り組みを規定しました。製造管理部門は、リスクの改善など従業員の安全活動に重点を置いています。
現行の手順書（SOP）や作業の動線（OPL）の確認、原因分析、監査などを行って、安全と品質の改善や開発を行います。そして、機械の改造や新規設置後に、安全と品質について確認します。

労働慣行

横浜ゴムの新しい労働安全衛生方針に沿って方針の見直しを行いました。

安全衛生の基本原則

安全衛生をすべての基本であり
労働災害防止と健康的で快適な職場づくりを目指します。

労働安全衛生方針

1. 各作業員は、安全を最優先にしなければならない。従業員と経営陣の積極的な参加と協力を得て安全活動を改善する。
2. 安全衛生に関するすべての規則および法律を確実に遵守する。
3. 安全衛生の重要性についてすべての労働者に伝え、必要なすべての訓練を実施する。
4. 企業活動に従事するすべての労働者の安全と健康を確保するため、関係するパートナー企業との協力を強化する。
5. 装置と作業の両方に伴う潜在的なリスクを排除するために、労働安全衛生マネジメントシステムに基づくPDCAを活用し、継続的に改善を行う。
6. 職場における安全衛生の基本である「清潔で秩序を保つ」ために、2S活動を徹底的に実施する。
7. 精神的および肉体的な健康増進のための積極的な支援とともに、快適な職場環境づくりを促進する。
8. 自動車関連業界の一社として、交通事故を防止するための措置を取る。

安全衛生につきましては、第一優先課題として取り組みを継続しています。労働安全衛生マネジメントシステムをベースに、公開作業観察活動・設備の本質安全活動等、人（人と仕組み）と設備、両面からの活動を展開しています。

OHSAS認証書

TIS認証書

危険作業のギャップ調査活動

標準作業手順書（SOP）では記載されていない作業に危険が隠れています。そこで、危険作業のギャップ調査活動を行い、マシンとフェンスの間の隙間などは作業者への安全対策が不十分であることが分かりました。全ての機械とSOPの改善のため、リスクアセスメント点検結果を元に「改善すべきリスクの要約リスト」を作成しました。リスクレベルV 130箇所、IV-III（重大度8）610箇所、IV350箇所、III1892箇所は2017年12月までに改善を行いました。引き続きリスク低減活動を行い、活動報告を定期的に行い、横浜ゴム担当部門による改善確認を受けました。

入り込める箇所を点検

リスクアセスメントの様子

2017年度は35チームが品質向上活動に取り組みました。
TPM（QCCやOM活動）、フォローアップ演習、プレゼンテーションおよびコンテストでの教育を行いました。

品質教育活動

社内だけでなく、OEメーカー（トヨタ、三菱、ホンダ、いすゞ）の発表会にも積極的に参加しました。

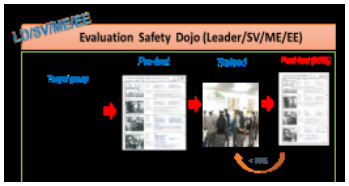
三菱にて

社内にて

体感訓練（安全道場）

2017年、多くの事故が発生していることから、安全部門では、事故の原因を突き止めるために、体感訓練の内容を改訂しました。レーダーチャートを使ってC-Dランクを評価する手法です。それを使って、全ての部門の管理者と監督者及び機械・電気・技術・IT技術者を含む全ての従業員の安全意識を高めたいと考えています。そのため、2018年3月までに事前テストと事後テストを従業員が行う計画を立てました。事前テストで30点の従業員も事後テストでは50点のスコア（90%の理解度）を目指します。従業員がテストに合格しなかった場合は、再訓練して試験に合格する必要があります。また、2018年3月に安全道場での再訓練は100%完了しました。

訓練の流れ



訓練の様子

体感訓練の様子

労働慣行

安全説明会

2017年にYTMTは、従業員の姿勢や意識から生まれる安全文化を築くことを目指して安全活動に取り組んでいます。
そのため、トレーニングコース「安全意識」を提供しています。このコースでは、基本的な労働安全衛生、災害事故の定義（微少災害・重大災害）とその対応について学ぶことができます。また、私たちに関わるさまざまな損失（直接損失や間接損失）の影響について知ることができます。このことは安全行動を取るためにとても重要な訓練です。
そのため、トレーニングキャンペーンは、組織内の全ての人々が職場での安全意識を高めるために、トレーニングのキャンペーンを行い、参加を促しています。

safety awareness

タイ国王を偲んで

タイ国民は、2016年に愛するソブリン王ラーマIXを失いました。これは私たちにとても大きな影響を与えた出来事でした。
2017年に王家が火葬を行う前に、当社と労働組合、そして各部門の代表がYTMTの前にマリーゴールドフラワーを植えました。それが2017年10月26日に行われる王立火葬式には開花することを計画して行いました。

ヨコハマ100年を祝う

2017年、横浜ゴムは創業100年を迎えました。YTMTは横浜ゴムグループとして、お祝いの記念写真を撮りました。私たちはこれからも横浜ゴムと共に成長していきます。

障がいを持つ方と共に

2017年4月に1名の障がい者が辞職しましたが、2017年9月に新たに障がい者を雇用しました。障がいを持つ9名はYTMTでの作業を継続しています。

良好な労働環境の管理

2017年には、以下のように良好な作業環境を継続して開発しています。
当社は、従業員がいつでも笑顔を絶やさぬよう、幸せを感じながら働き、毎日家まで安全に帰宅することができる環境づくりに取り組んでいます。
従業員が幸せを自宅で実感できれば、すべての仕事の達成につながるものと考え、2016年から「幸せな8時間の働き」の訓練を実施しました。

優れた労働と福祉に関する表彰

YTMTはタイ政府が主催した労働および福祉表彰に応募しました。
2017年11月15日、ラヨーンの東部臨海工業団地で開催された授賞式に、経営者と組合代表が参加しました。
タイ全土からの145の大企業を含むさまざまなカテゴリーに、総勢984社の企業が授賞式でこの賞を受賞しました。そのうちの61社はラヨーン県にあります。

長期休暇キャンペーン

私たちは、長期休暇中に全ての従業員が安全な旅行を楽しむことを願って、お菓子やフレーバー、緊急連絡先の配布などキャンペーンを実施しています。

労働慣行

コミュニケーション

病気の従業員へのお見舞い

当社と従業員の良好な関係を構築するため、病気になった従業員のお見舞いをしています。
2017年に38名の従業員を訪問しました。この活動は、病気の従業員への励ましになり、早期の復帰につながります。

社員旅行の活動

労働組合と当社の福利厚生委員会は共同で、2017年度も従業員の旅行活動を引き続き実施しています。チームワークを築き、午後はリラックスして美しい観光地を見ることができます。

誕生日パーティー

2014年から誕生日パーティーを続け、従業員へのモチベーションは高まり、生産活動にも貢献しています。2017年には、昼休み中に開催している従業員の誕生日パーティーを続けると共に少し内容を見直しました。経営陣は従業員と一緒に昼食をとっています。
2017年の参加率はわずかに（約2%）低下して78%になりましたが、99.82%の従業員が満足しています。

環境

環境方針

社会と公正に対処し、環境との調和を重視する原則に従い、環境保全技術

1. 経営トップのもとで、すべての活動において環境に配慮した取り組みを開始し、すべての製品を環境に配慮した製品にする。
2. ステークホルダーとのコミュニケーションを深め、地域社会や社会全体への貢献に努めます。
3. 環境マネジメントシステムを強化し、環境への影響を軽減し、環境汚染を防止し、感覚的な迷惑を減らすための先制的アプローチを使用して、環境改善に継続的に取り組みます。
4. 私たちは、関連する法律、規則、協定を遵守するとともに、環境改善に役立つ活動を継続的に実施するよう努めます。
5. 地球温暖化防止、省エネルギー、資源循環に努め、循環型社会の実現を目指した資源循環を推進します。
6. 私たちは、生物多様性の保全に努め、有機資源を事業活動において持続的に使用するよう努めます。
7. 地域社会との共生を図り、地域社会から信頼される企業となることを目指します。

私たちはこの方針を公表し、全員に周知します。

エネルギー政策

1. 会社の運営の一部として、適切なエネルギー管理システムを導入し、厳密に、エネルギーの法律や規制の遵守を検討します。
2. 企業のエネルギープロファイルと使用法を遵守するための目標とプラットフォームを提供し、全従業員に理解させ、正しく参加するよう伝えます。
3. すべてのレベルの従業員に省エネ意識を高めます。また、従業員一人ひとりが省エネルギー・管理に参加できるようにします。
4. 資源、人員、予算、勤務時間を提供し、すべての従業員に必要な訓練を含めて継続的な改善エネルギーパフォーマンスを提供します。
5. 環境や生産性に影響を与えずに、省エネルギーの観点から改善や建物、製品を含めた機器や機械の調達に重点を置いてエネルギー効率を重視します。
6. エネルギーマネジメントシステムに関心のある地域社会や組織と協力して、エネルギー管理システムを公表します。
7. 当社の管理システムを見直し、エネルギー効率の改善を継続します。

環境

環境・省エネマネジメントを積極的に取得し、社内・工場の改善に取り入れています。
エネルギーマネジメントシステムISO50001については、会社としてはタイ国で初めて2011年8月に取得しており、エネルギーパフォーマンスの改善が、認められています。

ISO14001認証書

ISO50001認証書

環境データ

項　目		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
廃棄物発生量（t）		2,002	2,241	2,277	2,545	2,512
埋立率（%）		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー使用量（原油換算：kl）	電力	25,190	27,187	27,911	27,791	20,339
	燃料	9,507	11,402	9,986	10,088	15,065
	合計	34,697	38,589	37,897	37,878	35,560
温室効果ガス排出量（千t-CO_2）		73.5	81.5	74.3	74.3	69.0
水使用量（千m^3）		591	622	639	661	621

※年度：1月～12月
※2008年度より温室効果ガス排出量の算定は、日本国の環境省・経済産業省発行の温室効果ガス排出量算定・報告マニュアルを使用しました。2016年度以降、海外拠点の算定では、GHGプロトコルを使用しました。

化学物質に関する報告

2017年、安全と環境では、「産業省の通知である有害化学物質保管マニュアル、及びTOYOTA防火協力会の基準に適合するように可燃性物質を管理しました。
私たちは、可燃性物質の調査保管状態を進めました。調査の結果、可燃性で火災の危険性が高いガソリンについて以下の対応を取りました。安全部門と原材料部門でミーティングを行い、ガソリンの保管基準条件を決めました。PCLT用タイヤ工場での設置における改善の詳細は以下の通りです。

1. ガソリンの貯蔵は地上タンクを設置する（9月17日完了）。
2. 防爆タイプの電気ランプは点検し、電線が破れていないか検査する。
3. 安全表示を付ける（可燃性液体、電気スパーク、静電気スパーク、禁煙、担当者、ガソリンルームで携帯電話を充電しないなど）。
4. ガソリンカートには電気伝達チェーンを取り付ける。
5. 緊急時や化学物質の漏れがある場合のために、消火器とホワイトカーボン吸収剤を準備する。
6. ガソリンルームではチェックシートで毎日点検する。

騒音、振動および臭気

近隣住民からの臭気問題については、工場周辺では、従業員や警備員が臭気検査を実施し、地域社会委員会の住民と毎月連絡を取っています。臭気対策システム「湿式洗浄機（スクラバー）」の設置を行い、地域の協力による臭気モニタリングなどに取り組んでいます。

環境事故とリスクの最小化

テストコース（TTCA)では、2017年に、排水処理槽の安定した水質確保のため、以下の取組みを実施しました。

- 廃水処理タンクを全て新品に交換。
- 廃水処理槽用コンクリートを再被覆。
- 環境リスクを最小限に抑えるための監視と週単位のチェック実施。

2017年の生物多様性保全活動

事業活動の中で、事業所内外の蝶、蜻、鳥の生活を常に監視しています。これらの生物のすべての生態を観測することは、大気、水質、多様性のベンチマークとなるので、池や天候、水質をチェックしています。
また、生物多様性保全の基盤として、ビオトープでは、歩道の整備を行いました。当社周辺の学生の学習拠点としてビオトープを開放しています。引き続き、ビオトープ周辺の改善を進めます。

公正な事業慣行

2017年度は、地元のサプライヤー51社を訪問し、その活動を確認しました。この訪問の結果、当社とサプライヤーとの良好な関係が構築され、公正な運営の基盤として一緒に発展することができます。

消費者課題

2017年度も、環境に配慮したタイヤ製品の開発、生産に努めています。2017年2月10日、横浜ゴムは新しいタイヤパターンもつ「BluEarth-ES ES32」を発売し、多くの国から約105人のグローバルなセールス&マーケティング担当にお披露目しました。
このイベントには、アジアのクロスカントリーで青木琢磨を含むレースドライバーが参加しました。

当社のタイヤ試験施設であるYTMTプラントとアジアのタイヤ試験センター（TTCA）は、販売代理店や販売会社からの多くの訪問を受け、タイヤのノウハウを共有する機会を提供しています。2017年には合計18のグループの訪問がありました。
訪問の例：2017年8月8日、タイヤ販売代理店協会の約45名がタイヤ知識と新技術を学ぶために訪れました。
2017年2月17日、ヨコハマタイヤオーストラリアはオーストラリアのディーラーを招待。
24名全員が、TTCAで、Advan Fleva V701、Geolandar G015 A/Tの試乗を行いました。

販売会社やディストリビューターからの訪問の他に、タイヤの知識を深めたい大学の団体からの訪問も歓迎します。
2017年には、5つの大学の団体がYTMTを訪問しました。

消費者志向

2017年は、お客さまの要求を満足し、社内で品質事故をゼロにするための活動に力を入れています。目標を達成するために、私たちは横浜ゴムグループとお客さまの要求に沿った2つ活動を行いました。

1. 横浜ゴムとの安全活動
   安全管理者としての知識を育成するため、昨年横浜ゴムグループのプロジェクト「Safety Master」に参加しました。6月に行われ、安全知識と具体的な施策を学ぶプロジェクトです。訓練内容は、リスクアセスメント活動、危険予知（KY）活動、ヒヤリハット&チョコ停防止活動、安全ワーカー評価、教育計画の策定に重点を置いています。訓練終了後、YTMTは2017年に全ての活動を開始しました。これらの活動を継続するため、横浜ゴムグループの監査を7月に受けました。監査後、YTMTは従業員の危険認識に焦点を当て、安全な生産活動を継続しています。
2. 顧客との安全活動
   これは非常に重要です。私たちは全ての活動をカバーする安全計画を設定します。2017年には、工場管理における安全体制、機械トラブル対応の基本ルール、機械安全リスクアセスメント、請負業者の非日常業務（高所作業）、防火システムに焦点を当てました。これにより、安全意識の向上、化学物質の保管の改善、職場の活動の改善などができました。顧客による監査は12月に実施されました。監査の後、私たちは全ての活動を継続しています。

消費者課題

苦情などへの対応

皆さまから頂きました情報につきましては、要領に基づき、迅速に社内展開され、分析・対策等を立てて、お客さまへ、回答・対応させていただいています。
2017年度もステークホルダーからの苦情はありませんでした。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

地域社会とのかかわり

2017年には、44の主要活動を実施しました。

- 千年の杜プロジェクトや植林指導を含む環境対応活動　13件
- 地域イベントへの参加など、地域との関係強化活動　15件
- 寺院の保全を含む文化的保全活動　3件
- ボランティア活動や寄付など社会貢献活動　13件

環境対応活動

当社は工業団地省に事業所がある65社の中で、廃棄物管理でプラチナレベル（最優秀賞）5社に選ばれました。

YTMTはMap yang porn sub地区から2017年の環境とCSR賞を受賞しました。計26社が受賞し、YTMTは第3位でした

千年の杜プロジェクト活動

2017年（YOKOHAMA Forever Forest Project発足後10年以内）に50万本の植樹を目指すため、今年のGD100計画に沿って2017年はYTMT累計で84,725本の樹木が植えられ、目標達成率は169%、CO_2排出量は677,798トン／年となりました。
2017年9月に第10回植樹活動が実施され、1,845名の従業員が参加し、1,238m²の面積に1万本の樹木苗を植え、植林修理3,000本の植林面積336m²を植えました。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

就業体験

教育支援として、学生が将来のための知識を得る機会を提供します。学校で学ぶ機会のなかった当社社員の経験を踏まえ、就業体験を開催しました。2–4カ月の間に、大学での勉強とは異なる、さまざまな職場で、実際の仕事に必要な専門知識や技術を学ぶことができました。2017年には10大学の合計20名の学生がこの訓練を受けました。

地元のラリー競技への参加

2017年11月に、YTMTのチームが地元のラリー競技に参加し、サラブリへのコースに参加しました。

YOKOHAMA千年の杜プロジェクトのテレビ放送

環境と品質の担当部門は、テレビ放送の撮影を行いました。
※7月10日午後03：40–03：45、テレビ5チャンネルで放送
※7月11日午前07：00より国営テレビで放送

YRCグループの環境コンサルタントがYTMTのCSR活動を訪問

環境コンサルタントの川北氏と、横浜ゴムのCSR担当者がYTMTを訪問し、YTMTのCSRと環境活動のモニタリングを行いました。

廃棄物から飲料容器回収による募金活動

2017年には120kgを寄付しました。リサイクルプロセスの後、貧困者のための住宅の建設を支援する屋根と壁を作ることができ、廃棄物処理のコストも削減することができます。

タイ北東部および北部における洪水被害者への寄付金

2017年7月、タイの北東部および北部は多くの州で洪水を起こし、YTMTと労働組合は洪水犠牲者の援助のためにキャンペーンを行い、寄付を行っています。
私たちは従業員から25,000バーツの寄付金を受け取り、YTMTは25,000バーツを寄付しました。総額50,000バーツが首相官邸に寄付されました。